

■加藤木重教 電気技術者。日本初の電気雑誌(電気之友)を創刊し、開発・啓蒙に努めた。電話掛け言葉'もしもし'も発案。

かとうぎしげのり

蕃書調所・1857= 陸奥国三春で、平藩柔道師範加藤木直親の次男に生まれる。幼名は六三(ろくぞう)。

桜田門外変・1860= 3歳 :

薩長同盟・1866= 9歳 :

明治維新・1868=11歳 :

戊辰戦争終・1869=12歳 : 兄と共に藩校に入学,  
家が貧しかったため苦学するうち、

廃藩置県・1871=15歳 : 藩命により慶應義塾へ入学、

明治6年政変 1873=16歳 :

佐賀の乱・1874=17歳 : 卒業すると、\_電信修技校に入学,  
初の民間工場1875=18歳 : \_工学寮にも通学して、エアトンに師事、

海軍兵学校を目指すも年齢規程に間に合わず、辞退して、

\_工部省に入り、電信技術官へ任命される。

明治14年政変1881=24歳 :

岩倉具視没・1883=26歳 : 以降、電信局電気試験所で、電話機・電話交換法を研究。

秩父事件・1884=27歳 :

内閣発足・1885=28歳 : 研究のため渡米を希望し工部省に辞職願いをだすも却下される。  
巾着型電話機の発明や欧米電話事業の調査・啓蒙活動に尽力し、志田林三郎の指導下で電燈事業・蓄電池製造等にも参画。

国民之友始・1887=30歳 : \_東京電信学校が設置され、助教授になるが、渡米費用捻出すべく、

初の対等条約1888=31歳 : 辞職して、田中久重の田中製作所に入り、日本初の火災報知器を製作後、

帝国憲法発布1889=32歳 : 辞職して渡米し、ウェスタンエレクトリック社で電話機・交換機製作、掛ける語'もしもし'を考え出す。

帝国議会始・1890=33歳 : 帰国後、{三吉電機工場}と{深川電燈会社}に技師長として勤務、

大津事件・1891=34歳 : かたわら\*日本初の電気雑誌(電気之友)を創刊し、

郡司千島探検1893=36歳 :

日清戦争始・1894=37歳 :

白馬会・1896=39歳 : \*{三吉電機工場}と{深川電燈会社}を辞職して、{電友社}を創設。

教科書疑獄・1902=45歳 : この頃には、'もしもし'に統一された。

\_ {電友社}より、

日露戦争終・1905=48歳 :

満鉄発足・1906=49歳 : \_「避雷針設計大要」を入れた「雷の話」、

大逆事件判決1911=54歳 :

明治天皇没・1912=55歳 :

大正政変・1913=56歳 : \_ {釜石電燈株式会社}の社長となり、

第一次大戦始1914=57歳 : \_「電話機使用問答」、

民本主義・1916=59歳 : \_「日本電気事業発達史 前編」、

ロシア革命・1917=60歳 : 日本工業倶楽部設立に尽力し評議員になる。

本格政党内閣1918=61歳 : \_「日本電気事業発達史 後編」、

大暴落・1920=63歳 :

原敬首相暗殺1921=64歳 : \_ {合資会社電気之友社}としてなお電気関連書籍を刊行し続けたが、

この間、慶應義塾商業学校を支援し、慶應義塾維持寄付金募集を率先して行った。

共産党事件・1928=71歳 : \*自伝「重教七十年の旅」は前編のみの刊行に終り、以後、活動衰退。

世界恐慌・1929=72歳 :

満州事変・1931=74歳 :

日中戦争始・1937=80歳 :

健保+総動員 1938=81歳 :

大政翼賛会・1940=83歳 : \_没した。

平凡社百科事典、インターネットWikipedia(「重教七十年の旅 前編」による)、ミカド電装商事ホームページほか、